

大腸がん検診における

「大腸内視鏡検診の有効性評価のための臨床試験」へのご協力について(お知らせ)

＜仙北市民のみなさまへ＞

現在、日本において大腸がんにかかる患者さんの数は増える一方で、亡くなる方の数は、がん全体のなかで、女性では第1位、男性でも第4位と、非常に多くなっています。

いうまでもなく、がんの治療で最も大切なことは早期発見、早期治療です。大腸がんも、早期のうちに見つければお腹を切らない治療(内視鏡治療や腹腔鏡手術)で治すことができます。

現在仙北市では日本の他の市町村と同じ様に、便潜血検査(検便)による大腸がん検診が住民検診として広く行われています。便潜血検査を多くの方に正しく受けて頂くことで、大腸がんの死亡率は確実に下がります。

しかし、亡くなる方の多い大腸がんの克服には、さらに効果の大きい検診法を考える事も大切です。新たな検診方法として、現在の便潜血検査に加えて大腸内視鏡検査を1度行う事が、最も可能性がある方法と考えられます。

大腸内視鏡検査はお尻から内視鏡を入れて直接大腸の中を観察する検査です。下剤を飲むなどの準備が必要ですが、直接大腸の中を隅々まで見られることから、早期の小さながんでも見つけることができます。

ただし、その方法が検診として、従来の検診よりどのくらい効果があるのかは研究がまだ十分ではありません。きちんと科学的に確かめる必要があります。

このような背景から今回、厚生労働省の第三次対がん総合戦略事業の一環として、「大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験(この研究は現在、国立がんセンター及び昭和大学の倫理審査委員会にて審査中です)」という臨床試験を行うこととなりました。

これは、従来の検診に大腸内視鏡検査を1度追加する事で、大腸がんによって亡くなる方がどれだけ減るのかに注目する試験です。これは世界で初めての試みで、今後の大腸がん治療の展望を大きく変える可能性があります。試験の対象となる方々や、費用、検査の流れなど詳細は今後機会を設けてご説明させていただきます。

この試験の実施にあたっては、多くの市民の方々のご協力が必要となります。何卒ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

主任研究者 昭和大学横浜市北部病院消化器センター長 工藤 進 英

ちょっとした心がけで がんを予防できます

《がんを防ぐための12カ条》

- 1. バランスのとれた栄養をとる**
ーいりどり豊かな食卓にしてー
- 2. 毎日、変化のある食生活を**
ーワンパターンではありませんか？
- 3. 食べすぎをさけ、脂肪はひかえめに**
ーおいしい物も適量にー
- 4. お酒はほどほどに**
ー健康的に楽しみましょうー
- 5. たばこは吸わないように**
ー特に、新しく吸いはじめないー
- 6. 食べものから適量のビタミンと
繊維質のものを多くとる**
ー緑黄色野菜をたっぷりー
- 7. 塩辛いものは少なめに、
あまり熱いものはさましてから**
ー胃や食道をいたわってー
- 8. 焦げた部分はさける**
ー突然変異を引きおこしますー
- 9. かびの生えたものに注意**
ー食べる前にチェックしてー
- 10. 日光に当たりすぎない**
ー太陽はいたずらものですー
- 11. 適度にスポーツをする**
ーいい汗、流しましょうー
- 12. 体を清潔に**
ーさわやか気分ー